

玉井小だより

平成28年7月19日

大玉村立玉井小学校

TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

夏休みと読書

いよいよ子どもたちの待ちに待った夏休みです。夏友と通知票をもらって、友達と一緒に校門をかけて出るときあの何とも言えない開放感と夏休みに対する期待感のようなものは、子どもの頃、誰もが感じたことがあるのではないのでしょうか。

「夏休み」、子どもたちには自由な時間がたっぷりあります。「本を読む習慣」をつけるのには最も良い季節です。

『銀河鉄道の夜』を書いた宮沢賢治は自分の書いたお話の数々を「すきとおったほんとうのたべもの」と表現しています。食物が身体をつくるのと同じように、読書は豊かな心を育みます。学力も言葉の力に支えられています。人間の感情をコントロールするのも言葉です。この夏休みに、たくさん本を読ませてください。お願いします。

『注文の多い料理店』序

わたしたちは、氷砂糖をほしくらいもたないでも、きれいにすきとおった風をたべ、桃色のうつくしい朝の日光をのおことができます。(中略)
わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾されかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません。

宮沢賢治



スウェーデンの友だちが見た大玉村

6月から玉井小に来ていたアーリング・ミモさんと弟のロエさんが、8月2日にスウェーデンに帰るそうです。この間、二人はほとんど休まず、元気に登校し、玉井小の子どもたちと仲良く過ごしました。

先週、「玉井小で何が楽しかった？」と聞いてみました。するとミモさんは、「おどり」と答えました。「田植え踊り」のことです。ミモさんは友だちに教えてもらい、奴の軍配を上手に回していました。その「おどり」が楽しかったのだそうです。

そしてロエさんは、「フォレストパーク」と答えました。3年生の校外学習で行ったフォレストパークが楽しかったようです。

最も日本らしいもの、大玉村ならではのものを、外国の子はおもしろいと感じたのです。

スウェーデンから友だちが来たことで、大玉村の価値を再認識できたような気がします。



【玉井小の校門前で】

〈裏へ続きます〉

着衣水泳「浮いて待て」

先週、7月13日（水）には、1年、3年、5年生が、そして15日（金）には2年、4年、6年生が着衣水泳の勉強をしました。

今年で3年目になります。今年も前PTA会長の武田智道さんたちの水難学会着衣泳研究会のみなさんにご指導いただきました。11人全員が、消防署の職員で、人命救助のプロです。みなさんは、仕事を調整し、休みの日を合わせて「ボランティア」で来てくださっています。無償で、そして自分の意思で、「子どもたちのために」という思いで来てくださっています。そこが「カッコいい」とわたしは思います。そして本当にありがたく思います。

子どもたちはその「カッコいい大人」の背中を見て学んでいきます。講師のみなさんのお名前を紹介します。

武田智道さん 三浦聖徳さん 佐藤洋幸さん 大内隆行さん 菅原康仁さん 黒澤廉さん
武藤拓磨さん 吉田大地さん 遠藤慎也さん 官野湧平さん 後藤勇斗さん

みなさん、本当にありがとうございます。次に子どもの感想を載せます。

わたしは、今日の2校時目に「ういてまて」の勉強をしました。服を着て水に浮くのです。1年生、2年生のときは、浮くのがこわくて、お兄さんに背中をもってもらいました。3年生になったら、1回目は背中をもってもらったけど、2回目は一人でできました。4年生になったら自分で浮いてみたいと思いました。また教えに来てください。（3年 鈴木愛理）



【来年も、来てくださいね】



【地域の方も教えに来てくださいました】

1年の学習参加を終えて

先週は、1週間にわたり保護者のみなさまや地域のみなさまが、1年生の算数の授業に来てくださいました。

たし算やひき算、時計の読み方など、今まで習ったところの復習のプリントをどんどん進める学習でした。担任1人で25人の丸付けをするのは大変なのですが、保護者の方が参加してくださることで、子どもたちの学習がどんどん進んでいきます。子どもたちもとても楽しかったようです。ご協力、本当にありがとうございました。

子どもたちの教育は、学校だけでできるものではありません。保護者のみなさまや地域のみなさま、そして地域の企業等の方々と、「玉井小の子どもたちに対する思いを共有」して、子どもたちの教育に当たっていくことが大切だと考えています。

これからの学校には、地域のみなさまの思いをつないだり、地域の教育力をコーディネートしていく力が求められていると思っています。2学期もご協力よろしくお願いします。